

取組み報告書

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【特定非営利活動法人 エルダーサポート協会 小規模多機能ホーム 愛の郷 曙】



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要

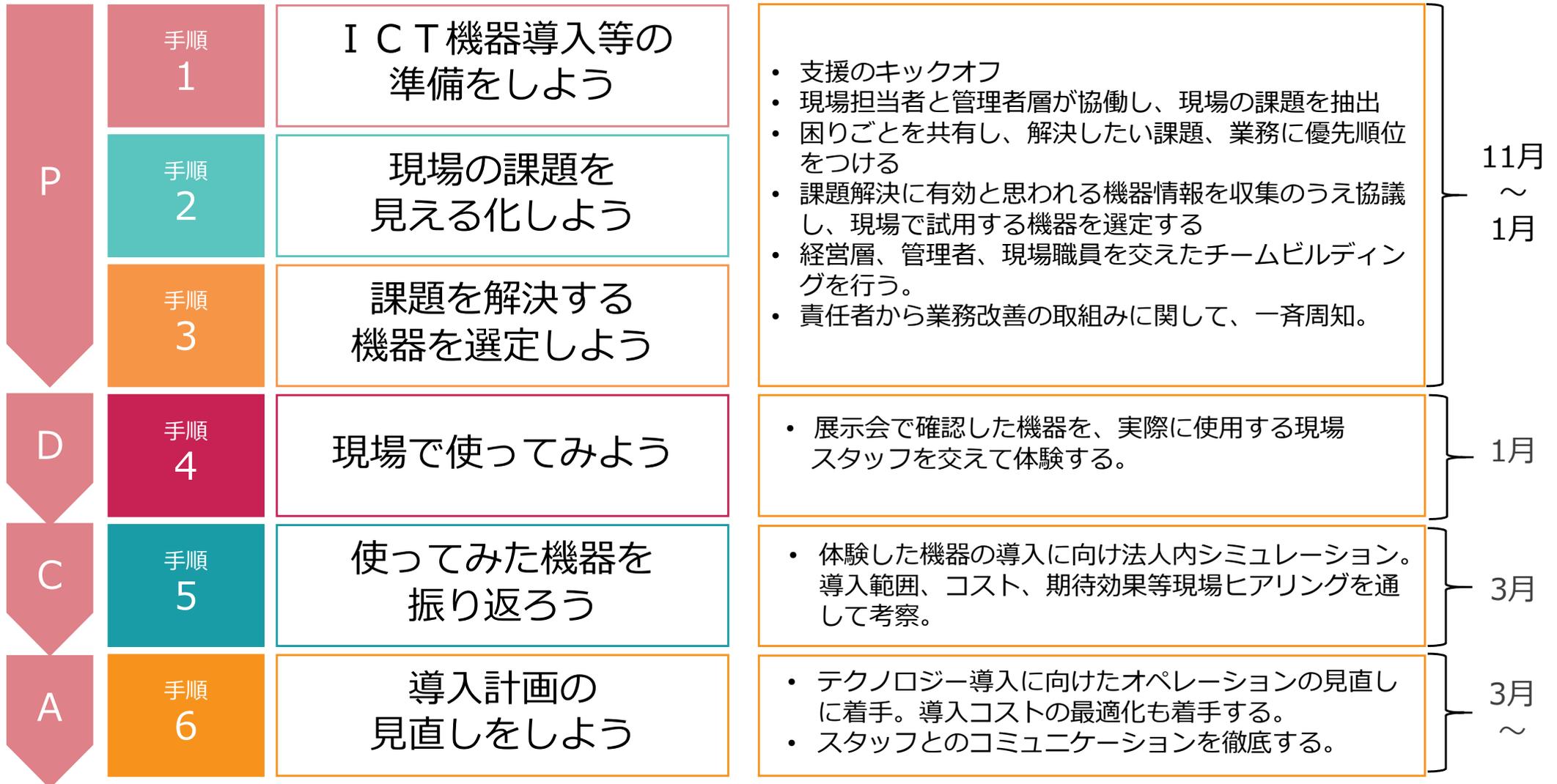


施設名	小規模多機能ホーム 愛の郷 曙
施設種別	小規模多機能型居宅介護
定員	25名
開設日	2008年10月1日
所在地	福山市曙町5丁目5-4

取組みの流れ

取組の流れ

具体的な取組み内容



手順1 ICT機器導入等の準備をしよう

実施内容

- キックオフとして、取組みメンバーを選任。
- 現状何に困っているのか、忌憚ない意見を出してもらおう。
- 11月に開催される展示会に向け、情報を集約。

■ 生産性向上プロジェクトチーム

(令和7年3月まで)

- 小規模多機能ホーム愛の郷 曙 管理者、職員
 - 本部（特定非営利活動法人エルダーサポート協会） 部長、課長
- ※福山市介護職員等負担軽減アドバイザー派遣事業
- 福山市保健福祉局社会応援部介護保険課施設整備担当
 - 一般社団法人日本福祉用具供給協会中国支部広島県ブロック

(令和7年4月以降)

- 小規模多機能ホーム、グループホーム、デイサービス 管理者、プロジェクト担当者、職員
- 本部（特定非営利活動法人エルダーサポート協会） 部長、課長、主任

手順2 現場の課題を見える化しよう

実施内容

- 各現場で起きている課題、困りごとを抽出。
- 現場目線で意見を出してもらう。

見える化された課題

- 全拠点紙ベースで記録を行っている。
- 帳票記載、転記作業など1日当たり3～4時間程度記録業務をしており、非効率。
- 帳票の書式が拠点ごとにバラバラなため、他拠点のスタッフが応援に行っても記録に時間が掛かる。
- 施設にIpadを1台導入しているが、機能していない。

(考察)

紙での記録は時間がかかり、職員負担になっている。

また、レセプト等の業務負荷が多大になっており、非効率。

これを解決するだけでも、職員負担の軽減や拠点運営のスリム化につながる。

手順3 課題を解決する機器を選定しよう

今回選んだ解決したい課題

- 記録業務を軸に機器を選定、試用する。

その理由・背景

- 業務負荷が特にかかっているものが記録業務という意見が多くみられ、現場、経営層とがともに了承した。

課題に対する現状

- 書くことが業務になっており、その記録をケアに活かす時間が取れていない。
- 導入済のipadを使いこなせていない等、テクノロジーに抵抗がある。

解決した後の姿（目標）

- 紙での記録をデータ管理にすることで、法人内で統一フォーマットの運用が可能になり、拠点間の異動も視野に入れることが出来る。
- Ipadを含むテクノロジーを積極的に利活用することで、業務の効率化が出来る。
- 利用者の健康状態の見直しが容易に行えるようになる。

手順4 現場で使ってみよう

実施内容

- 現場の意見及び、福祉用具展示会（@広島）での情報を踏まえ、システムベンダーに実際に施設に来てもらい、機器の体験を実施。

体験機器（ケアカルテ・ハナスト） URL : <https://www.carekarte.jp/>



手順5 使ってみた機器を振り返ろう

使用した結果（所感）

- 参加した職員にヒアリングを実施。

集まった現場の声

- 使い勝手もよく、できるなら是非導入してもらいたい。
- これが稼働すれば、今やっている手書きでの記録をしなくてよくなり、記録にかかっている時間が削減できる。
- 記録が効率化され、時間を空けることができれば、そのほかの業務（ご利用者さまと接するケアやコミュニケーション等）に充てることができる。

職員の反応はとても前向き。機器のデモンストレーションをきっかけに職員との対話が増え、いい機会になっている。

手順6 導入計画の見直しをしよう

振り返りを踏まえた今後の活動

- 導入に向けた取り組みを加速させる。
- 現在経営層を中心に行っている本取組みを、管理者⇒現場職員へと広げていく。
- コミュニケーションの機会を増やし、周囲を巻き込んでいく。
- 具体的なゴール設定を行い、現在の課題の見える化（深化させる）を実施する。
- 管理オペレーション等の見直しにも着手し、導入コストの適正化を目指す。

全体の総括（導入チームから）

- 生産性向上の取り組みをおこなう際に、まず何から取り組まないといけないか分からない中でPDCAにおける手順を導いて頂きました。
- 現場の管理者、職員と今までにないコミュニケーションがとれました。話をすることで考えていた以上の思いや情報が把握できました。
- 現場での課題分析を現在は、1事業所でおこなっていますが今後は法人全体での見える化に早急に着手致します。
- ICT導入だけではなく、普段の業務の中でも「5S運動」など整理整頓、導線の確保などをおこない事故防止を未然に防ぐなど再度重要だと感じました。
- まだまだこれからが本格的な取り組み実現に向けての動きがありますが、利用者及び職員により良い環境作りの為頑張っていきたいと思えます。

手順6 導入計画の見直しをしよう

全体の総括（現場から）

- 生産性向上の取り組みについて、会議及び視察等を通じて管理者として「ICT導入は良い物」と感じたが、職員に対しどう熱量を持って巻き込み、方向性を示していくかが重要だと思いました。
- 現場が何に一番時間を割き、何が利用者へのサービス提供の支障になっているか話し合った際記録等が手書きになり、記述することが仕事になってしまい利用者に関わる時間が減り介護サービスの本質から外れていると感じました。
- 記録等に費やす時間をICT導入で簡略化することで職員の業務軽減を図り利用者及び家族との対話や、介護サービス向上につながると思います。

まとめ

全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。当協会にてお力になれる範囲に限られる中、現場で率先して現場の業務改善に取り組まれており、今後この流れを止めることなく推進していただきたいと思います。

「いろんな情報が入ってきて、頭がいっぱい。これであっているのか不安」というお言葉もお聞きしたこともありますが、焦る必要はありませんし、都度振り返りをされていますので、問題ないと存じます。

様々な情報を基に、都度柔軟な対応をお取りになられていますので、是非継続をしていただきたいと思います。

引き続きよろしく願いいたします。



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック